



No.380

編集発行人 中西三洋
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島 2-4-4
平和と労働センター・全労連会館
Eメール chiam@plum.plala.or.jp
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
振替 00110 6 97793
定価 50円

5月16日
国会請願

国賠署名を職場、地域にひろげ 草の根から憲法改悪阻止へ

主 な 記 事

新春理事会開く	2
顕彰碑／宮本百合子文学碑	5
時の焦点／共謀罪	5
抵抗の群像／三浦雷太郎（秋田）	6
同盟歌壇／選評・碓田のぼる	7
書棚／『歴史に生きる文学』奈良達雄	7

総選挙後の勝ち組を誇った新小泉内閣は、通常国会開会の冒頭から、耐震偽装の建築行政、米牛肉輸入の手ぬき、防衛施設庁談合、格差と貧困の拡大など、弱者切り捨て政策の破綻が浮きぼりになりました。

外交にいたっては、小泉首相の靖国参拜が、日本の侵略戦争を正義の戦争とする「靖国史観」に立つ行為であり、第二次大戦後の日独伊の戦争犯罪を断罪したうえに築かれた国際秩序を根底からくつがえすもので、国内外からの批判はつよまるばかりです。

孤立する小泉内閣は、米軍再編による「日米軍事同盟」をバックにした「戦争する国」への憲法改悪という、アジアの平和的共存への大きな流れに逆行する、いっそう危険な道を急いでいます。

私たち同盟の運動が基本としてきた「再び戦争と暗黒政治を許さない」というよびかけは、今や国民的な願いと共通し、憲法改悪を許さない国民的、社会的な連帯の一翼を果たしつつあります。治安維持法犠牲者への謝罪・賠償の要求は、過去のあやまちを正し、憲法九条を守る確かな証しとなる運動です。50万署名を持って、5月16日の国会請願を成功させましょう。



神戸照会長代行

意識的に拡大と署名を追及
最高時現勢を超過達成

大阪 塩田一向

昨年は四月に、上田日本共産党

毎週の一役会議と月一回の理事
会で情勢学習を重視し、意識的に
拡大と署名を追求してきました。

過達成しました。

一一一人拡大し、差し引きで念願の
二二五三人の最高時現勢を五人超
え達成しました。

三三〇人、七月から年末までに二

ど多面的にとりくみ、大会までに

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

副委員長を迎えて、3・15、4・

16大弾圧研修会を五〇〇人で開い

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

賦」や「時代を撃て 多喜二」な

たのをはじめ、多喜二の「早春の

全同盟員が憲法九条を
高くかかげ、たたかいの先頭に
二〇〇六年新春理事会・主な発言

新春全国理事会は1月25日、東京・全労連会館において
開かれ、全国から四都道府県の代表が出席しました。

冒頭、斉藤事務局長死去による本部体制確立のため新た

に神戸照会長代行、新事務局長に針谷宏一、新事務局次長

に小池莊一、非常任理事に田中幹夫を選出。

神戸会長代行挨拶に続いて、針谷事務局長による「全同

盟員が憲法九条を高くかかげ、たたかいの先頭に立とう

と、運動方針を提案、活発な討論がかわされました。



針谷宏一事務局長

全国女性交流集会の報告会を
民青と共催、後継者づくりを

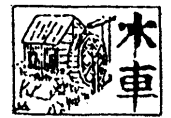
茨城 久保田俊雄

国民保護法の条例化が県議会に
かかっている。一連のピラ弾圧事
件や共謀罪など、治安維持法前夜
の情勢だということが、共通認識
になりつつある。全国女性交流集
会に初めて三十代と四十代の市議
が、一人は赤ちゃんを連れて参加
報告集会「春を呼ぶ女性の集い」
を民青と共催で計画。この中で若
者の中に会員を広げ後継者をつく
りたい。民青の県委員会が会員に
なったことが力になっています。

困難な支部を再建し滞納克服
顕彰活動と結んで会員拡大

北海道 伊藤 俊

財政では、大会時に四カ月滞納



年未恒例のNHK
の「紅白歌合戦」。古
い人間の一人として
なかなか現代の若者
のライブ調にはつい
てゆけず、歌は世につれ、世は
歌につれ」と歴史を思い起され
る昔の歌に耳を傾けがちです
今回ひとときわ光つたのが、吉永
小百合さんの詩の朗読と引きつ
づくさだまさしさんの歌。吉永
小百合さんは峠三吉と栗原貞子
の詩を、さだまさしさんは原爆
投下直後の広島と長崎の惨状を
歌いあげました。被爆六〇年に
ちなんだ演出とはいえ、視聴者
のだれにも、「非核平和の世界
の実現こそ幸せの根源」と教え
てくれました。歌声と平和で思
い出されるのは美空ひばりさ
ん。美空ひばりさんは生前毎年
夏の広島での「平和音楽祭」に
出演、「一本の鉛筆」を歌いまし
た。一本の鉛筆があれば平和と
書く」と 後年秋葉広島市長は
この美空ひばりさんに学んで、
八月六日の記念式典の平和宣言
の中で、「一本の鉛筆があれば
核兵器廃絶と書く」と、よびか
けられています。

(元)

し、身が縮じむ思いでした。全力を挙げてとりくんできた。まったく活動していなかった道北支部の再建に外尾会長も参加して総会を開き、署名と会費の滞納克服を全会員に訴え、年末には年度内会費とカンパを完納することができました。

1月の相沢良、2月は野呂栄太郎、小林多喜二などの顕彰集会の成功と結んで、会員を増やしたい。

一万人署名と団体九百超過達成
寺や教会の協力が力に

秋田 近江谷昭二郎

二万人署名と団体九〇〇の目標を超過達成したが、うち秋田支部が一万七二四〇人と団体六一八を集めました。

支部は毎月三役会議と幹事会を開いてとりくみを総括し、ニユーズで活動状況を会員に知らせている。

署名は憲法改悪反対、最低保障年金制度、課税強化反対の署名とセットにして会員に配布、役員が寺や教会に要請。県内全市町村議会での『陳情書』採択が大きな力になりました。

「時代を撃て」を成功させ、青年との接点広げ、会員増やす

島根 勝部庸一

「時代を撃て 多喜二」を10月



んな時代が日本にもあったのか」「今を学ぶよい教科書だった」などの感想文が寄せられました。全員に署名用紙を渡し、年末までに八〇〇人超の署名と会員八人を増やしました。

若い女性の参加もふえた
全国女性交流集会

女性部長 満淵政子

第16回全国女性交流集会は、七カ月の赤ちゃんから九三歳の松崎濱子さんも参加され、小松ときさん、増田しうさん、石川さだのさんからはメッセージを寄せられるなど、歴史の深さを感じさせるものでした。討論の中では「女性部はなぜ必要か」という質問も出され、同盟会員の自覚、質と量の大切さを痛感、今後とも学習を重視していきたい。

その後、全国各地で報告集会が開かれ、感動が広がっている。今年の日本母親大会は長崎県で開催されるが、昨年の茨城での集会では、「再び戦争と暗黒政治を許さない」が申し合せの中にとり入れられた。今年も大いにとりくみをつよめたい。

二月九日横浜事件の判決
横浜地裁に無罪判決の要請を

神奈川 増本一彦

横浜事件の判決・公判が2月9日に行われます。完全無罪が免訴かというところで、司法当局が朝日新聞などマスコミをつかって免訴でもよいのではないか、などをリクしている。

完全無罪以外にない。この事件はすべてデッチ上げ。共産党再建のための謀議が行われたなどは事実無根。拷問で自白させた以外に何の証拠もない。横浜地裁に無罪判決の要請をおこなってほしい。

拡大の経験をニユースに載せ、
全支部成果で節目目標を達成

和歌山 引地延子

六〇〇人にするために拡大理事會を開き、10・11月を拡大月間に決め、10月に二人拡大した経験を推進ニユースに載せた。これを読んだ支部長が、うちでもと一気に六人を増やし、11月は毎週成果が上がり、ニユースが週間になり、全十支部が成果をあげ、年末まで

に三三人の目標を達成。署名も遅れているが、推進委員会をつくり2〜4月まで月目標を決め、毎月ニュースを発行し促進する。

青森 小野俊子

結成当時掲げた目標をやりきりました。むつ支部は、市長候補になつた人が、治安維持法のことを若い人に語り継ぐのはわれわれ以外にない、と発言。これを聞いた会長と事務局長が飛んでいき、五人拡大。弘前支部の新春の集いにも会長が参加して町会や議員に署名を要請しました。二〇〇人目の会員が三十三歳の市議予定候補者。八戸でも四人増やしたので支部ができるようがんばりたい。

女性部を結成。「時代を撃て」を成功させ、会員拡大を

滋賀 西田 清

やつと女性部ができました。全国集會に参加した二人の代表が、1月に報告集會を開いて結成しました。3月15日に、「時代を撃て」を二〇〇人目標で成功させようと、券売りと労組・民主団体へ協

力申し入れ。これと結んで拡大を推進。

署名の推進委員会を毎月開催している。全市町村から集めるために、遅れているところには出かけて、キャラバンもやろう、推進ニュースもつくろうと考えている。

治安維持法で市役所を解雇

市長は日弁連救済勧告も拒否

山梨 広島喜栄司

石川さだのさんが12月21日九〇歳で亡くなりました。石川さんは治安維持法で三回逮捕。その間に甲府市役所を解雇。敗戦になり、治安維持法が廃止になつても解雇は取り消されず、日弁連が救済勧告をだしても甲府市は拒否しました。昨年、戦後六〇年でマスコミ各社がとりあげ、NHKは「なんとか名誉回復できないか」と報道。同盟は市長に面談を求めています。これを拒否しています。

再建三年目、「時代を撃て」を成功させ、支部確立を軌道に

愛媛 中川悦良

再建活動に入つて三年目。七一

「治安維持法と現代」春季号

原稿を募集します

◆テーマ 特集「私と憲法」

字数 二千字以内

戦後憲法に限らず、戦前憲法のもとで兵役につき戦場のおもむいた体験なども歓迎します

◆その他

同盟の理念にかなつた論考、治安維持法による諸事件、犠牲者の掘り起こし、顕彰などのレポート

字数 五千字以内

◆締切り 3月10日

『治安維持法と現代』編集委員会

人まで減らした会員を一〇五人まで回復しました。今治市で二人で支部が確立できました。新浜市、西条市、四国中央市でもこれに負けるなど、支部確立の段取りがすすめられています。

中西三洋会長

「米寿を祝う会」開く

中西会長は1月24日に八十八歳の誕生日を迎え、地区委員長をつとめた日本共産党千代田地区委員会、治安維持法同盟、親戚、友人などによる「米寿を祝う会」が東京・千代田区内で開かれ七十名が参加しました。

中西会長は元気な姿で出席し、

各界代表からの祝辞を受け、挨拶で憲法九条改悪の危険にもふれ、戦前の徴兵忌避の体験を述べ

「これからも精一杯がんばる」と決意を述べました。富喜子夫人は

中西会長との戦前戦後の闘いをまとめたパンフレット「がんばった

ふきちゃん」を参加者に配りました。

顕彰碑

『弥宜様宮田』の舞台となった
福島市飯坂温泉町に建つ

宮本百合子文学碑

「宮本百合子文学碑」は、飯坂温泉町愛宕山公園内の一角に、自然と解け合いながら静寂に包まれて佇んでいる。

百合子が処女作『貧しき人々の群』で鮮烈なデビューを果たしたのは十七歳の時であったが、その年と翌年の二度にわたって百合子は飯坂町を訪れて山河を歩き、人々と交流して、第二作となる『弥宜様宮田』の構想を練っていた。

この小説は、狡猾残忍な地主によって踏みじられる純朴な小作農の善意を、十八歳にも満たない少女の鋭敏な観察力で描写した秀



作であるが、『貧しき人々の群』の当時の文壇に与えた反響があまりにも大きすぎたため、話題になることの少なかった作品である。しかしこの二つの小説は混然一体となつて、その後の百合子の文学の母胎となり、作家としての無限の可能性を象徴する作品であった。この余り知られていない作品に光を当てたのが、県本部前会長吉田千代子さんである。

(福島県本部 菅原勝義)

政府が新設しようとしている「共謀罪」は、死刑・無期、長期四年以上の犯罪の実行行為に、事前に共謀（相談）したことを犯罪視して、処罰しようとするもの。

四年以上の懲役刑の犯罪事件の共謀は懲役二年、十年以上の大罪への共謀は懲役五年と規定されています。

一般的に犯罪事件には、実行行為、予備行為と区別され、現行刑法で予備行為の段階で処罰されるのは、殺人

時の焦点

・強盗などの凶悪犯罪のみ。この共謀罪が新設されるならば、さらにその前の段階での共謀同謀（相談・打合わせ）まで処罰しようとするもので、これまでの国民の基本的権利＝集会・結社・言論・表現の自由が著しく侵害されるおそれがあります。しかも共謀の事実の捜査は、もっぱら密告・盗聴によっておこなわれ、室内盗聴機や監視カメラを張りめぐらして、令状なしの盗聴・盗撮が、日常化する危険があります。密告制度も奨励され、近隣との友好的な市民生活がバラバラに分断され、社会不安が助長

共謀罪

されるおそれもあります。かつての治安維持法の「目的遂行罪」を連想されるこの悪法制定の理由を政府は、『国際的な組織犯罪の阻止に関する国際連合条約』（二〇〇〇年十月国連採択）に対応する国内法の整備と主張しています。これまでもすでに国会に三回上程され二回廃案、現在継続審議中です。

国際的組織犯罪といえば、テロとか麻薬取引、銃器密輸などが対象のはずですが、日本政府はそれに乗る形で、刑法の一般的犯罪行為に広げ、市民団体、労働組合、政党活動など二人以上の集団を無限定に対象とした、治安対策強化に悪用しようとするものです。

すでに南野法相は国会で対象となる犯罪行為は六一五件と表明。消費税法違反事件、公職選挙法違反事件、公害犠牲者の企業体への集団抗議行動、税金免税闘争も捜査の対象にふくまれるといわれます。

その危険性は憲法改悪の先取り、治安維持法体制復活の前兆と指摘できます。

(元)

抵抗の群像

検挙・投獄六回 不屈に闘った三浦雷太郎さん



近江谷昭二郎
(秋田県本部会長)

三浦雷太郎さんは、一九〇七年四月五日、秋田市大工町で旅館業の長男に生れた。秋田商業学校二年生の時、足尾銅山を誹首

された労働者二人が街頭演説をやりにながらパンフを売っていたのに同情し、三浦さんもパンフ売りを手伝い、労働者と一緒に検挙された。当然学校を処分されるどころ、校長のはからいで退学にならずにすんだ。

農民運動の中で党を組織

これが動機になって社会主義を勉強するようになり、同校内に学生社会科学研究会を組織。また、『種蒔く人』同人畠山松治郎らの『秋田労農社』に参加して、棚橋貞雄(秋田県の共産党組織創立者)、畠山松治郎の指導・援助で

秋田県の「学生社会科学研究会連合会」を発足させている。秋田商業学校を卒業した三浦さんは、秋田県庁会計課に勤務したが、治安維持法による日本共産党大弾圧3・15事件で検挙され、県庁を解雇された。この検挙と解雇をきっかけに革命運動に飛び込む決意をし、農民運動に参加することになった。

二八(昭三)年12月には鹿角郡花輪町を中心にした全農南鹿争議団を結成し、書記長として小作争議を指導、このなかで日本共産党に入党し、同時に共産党花輪細胞を建設している。二九年の共産党大弾圧4・16事件で検挙、懲役2年の刑をうけ下獄。

仙台の刑務所では大沢久明(戦後、共産党青森県委員長)らと獄中細胞を結成し、細胞新聞を発行

(三回)して待遇改善などを要求し厳しい迫害を受けている。三二(昭七)年、「非転向」で出獄した三浦さんは、直ちに農民運動に参加し、全農全国会議秋田県評議会の書記長、ならびに全国委員として、主として県南部の小作争議の指導にあたった。

同年11月、一〇二人が検挙され、共産党員二三人が起訴された『秋田共産党事件』で検挙され、7カ月間警察に留置されたが、党組織との関係が発覚せず不起訴で釈放になっている。三浦さんは、「以後、終戦まで党との連絡を回復することができなかった」と語っている。この時、三浦さんは二五歳であった。

秋田市会議員選挙に当選

『秋田共産党事件』で釈放された三浦さんは、三四(昭九)年4月、秋田中央農民組合の委員長に迎えられたが、同年11月23日、日本共産党中央の「多数派」分派から機関紙が送られていたと、4カ月間の取調のあと、起訴猶予で釈放された。

引き続き秋田中央農民組合で活動していた三浦さんは、三七(昭12)年4月の秋田市会議員選挙に、農民組合を支持地盤にして立候補し見事に当選している。しかし3カ月後には、日本帝国主義が中国に対する全面侵略戦争を開始。国民精神総動員実施を決定して、国民の思想統制を飛躍的に強化した政府は、12月には戦争反対の「人民戦線結成を企てた」として大規模な弾圧を強行した。

この弾圧で三浦さんは「反戦運動と共産主義思想」を理由に懲役2年の実刑で再び投獄。三浦さんが刑を終えて出獄したのは終戦2年前であった。

三浦雷太郎さんの戦前・戦中の活動は、治安維持法下の専制時代に、社会進歩と革命を求めた、命をかけた闘いの連続であった。この不屈の闘いは、秋田県における革命運動の戦前史の誇りとなっている。

戦後、三浦さんは、共産党秋田県委員長、同党中央委員などを六歳で死去するまで歴任した。秋田市墓地公園には、三浦さんの業績を偲び、「不屈」と刻まれた顕彰碑が建立されている。

同盟歌壇

碓田のぼる選

娘の傍に暮すと越したる友の家花木の庭は雪に埋もる

脚本家となるS君綴り方の宿題出さずと叱りし教え子

〔評〕第一首目、歌意おのずから明らかであるが、「花木の庭」に、友の生活の背景を、しみじみとして想像させてくる。二首目は、「あのS君が」といった驚きと、またなつかしさを含む。

新潟県 加茂川ハル子

静岡県 江川 佐一

片耳の大鹿見つむ山蔭に月の輪熊は高く見おろす(棕鳩十記念館) みどり児は母の乳房に指触れて与勇輝の人形と逢う(河口湖ミュージアム)

〔評〕棕鳩十は児童文学者。記念館は鹿児島県の加治木にある。「月の輪グマ」は代表作で、その印象を歌う。二首目の作品とともに、作者の感動が、ムダのない言葉でよく表現されている。

神奈川県 若林 義文

あいついで同志は逝きたり鎌倉の山も破壊の一途たどれり 尋ねくる同志もなかりし反戦を唱え戦後も六十年経つ

〔評〕戦後を反戦平和の思い一筋にたたかかって来た感慨をこめた作品である。二首の作品には、自然破壊による地域の変貌を見つめながら、志をともして来た、今は亡き同志たちを悼んでいる。

鳥取県 大久保 禮吉

初めての握手の温もり冷めやらす志位演説に勇氣湧き出づ 書記局長の母堂の歌にほのぼのと親子の愛に我を重ねる

〔評〕第一首目、志位さんの手のあたたかさ、その時聞いた演説の感動をうたっている。二首目は市田さんの歌。作者の母恋いの歌。

東京都 山崎 元

晩節の元朝に汲む若水は改憲ゆるさぬ五力年の大計

〔評〕「大計」とは大きな決意、大きな事業、といった意味である。新しい年を迎えた作者の心意気が表現されている。

書棚

奈良達雄著

『歴史に生きる文学』 下町人間総合研究所刊

一、〇〇〇円

民主主義文学の研究者、歌人であり、政治革新の運動家としても活躍されている奈良さんが、私たちが各地の同盟などでの講演や『治安維持法と現代』誌への論考等をもとにしてまとめ上梓された。

- I 先駆者たちの思想と文学
- II 文学の伝統と継承

第二章に八つの主題が盛り込まれている。

一つは、上野壯夫、若杉鳥子、田中正造など、茨城の古河出身の著者が郷土のすぐれた先人たちについて、その苦難の、不屈な生涯と作品をたどる。その一つ一つが現在の改憲策動とたたかい、平和・民主の理念の実現めざす国民の運動に大きな激励と示唆を与えてくれる内容となっている。

また、「文学に描かれた治安維持法下のたたかいと今日への教訓」「短歌に詠われた戦争と平和」「治安維持法下の歌人たち」などには、直接いまの私たちの運動の基点にかかわる内容がおさめられており、いずれもが著者の研究者としての研さんと革新政治家としての実践との統一によってこそ生み出されたもの、との感を深くする。

例えば、「現代に生きる田中正造の思想と行動」で、鉱毒事件のたたかいに一生を捧げたという一般的な正造像を、さらに日記などの資料をよみとくことによってあの明治憲法下において、彼は現在の日本国憲法の光彩を放つ平和・民主の原則と理念に国民主権、基本的人権、議会制民主主義、地方自治の精神、国際的視野に立つ恒久平和の主張をすでに先駆的に身につけていたという論述などは、目を見張らせるような提起である。また、「渡辺順三は窪田空穂から何を継承し発展させたか」なども、素人の私などにも、尽きない興味をかき立ててくれる。

(異)

治安維持法事件の
石川さだのさん死去

甲府市役所に治安維持法による不当解雇の「名誉回復」を求めていた石川さだのさん(同盟山梨県本部女性部長)は、さる12月21日多臓器不全のため死去。90歳でした。

石川さんは1934年東京交通労組のストライキに参加。42年治安維持法違反容疑で憲兵隊に逮捕、甲府市役所を解雇されました。甲府市にたいし、「名誉回復」を求め、日弁連は救済を勧告しましたが市が拒否。提訴を準備中でした。

1月13日 3・8国際女性デー実行委員会
1月16日 「不屈」2月号編集会議
1月17日 日本国際法律家協会理事会
1月24日 中央三役会議
1月25日 新春中央理事會
1月26日 国際人権活動日本委員会
1月28日 3・8国際婦人デー実行委員会
1月31日 「不屈」2月号編集会議
(寄贈図書)
『瀬長フミと亀次郎』あけぼの出版
内村千尋著
『五・一広場』本の泉社
田中山五郎著

事務局日誌

12月15日 葛飾古川菖墓参り

12月22日 国際女性デー実行委員会

12月23日 葛飾マンションピラ配布

当弾圧一周年記念集会

新年号に掲載した年賀名刺広告を、左記のとおり追加・訂正いたします。
西日本版二頁「滋賀第一法律事務所」の吉原稔弁護士を削除。

安破棄・諸要求貫徹北海道実行委員会
札幌市白石区菊水二条一三二
野月ビル303
野月ビル303

日本共産党
上山市議団
上山市葉山五 六五 橋本方
〇〇三三 六七二 〇六八七

日本共産党
笛吹市議員団
笛吹市石和町四日市場三二二
〇五五 二六二 〇二六 F兼

新日本婦人の会山梨県本部
会長 石原靖子
甲府市丸の内一 一五 一九
〇五五 二二六 五三三四

山口県商工団体連合会
山口市小郡大江町一 二七
〇八三 九七二 三九六二

日本共産党
山口県委員会
委員長 加藤碩
山口市小郡山手上三七三 五
八三 九七二 四二一

山口・戦争体験を
記録する会

山口市大内御堀二〇六四一四
守屋宏方
八三 九三二 八六九六

鳥取県民主商工会連合会
境港市湊町五五
〇八五九 四四 二〇一〇

鳥取民主商工会
鳥取市西品治一〇五
〇八五九 二四 五一九一

米子民主商工会
米子市博労町三 九〇
〇八五九 二二 三八六〇

境港民主商工会
境港市湊町五五
〇八五九 四四 二〇一〇

日本共産党
香川町議会議員団
〇八七 八七九 〇三二一

日本共産党・市民共同
下関市議会議員団
下関市田中町六 二二三
〇八三三 二二三 九四一四
F〇八三三 二二三 五二二五

下関中央法律事務所
弁護士 田川章次
弁護士 板淵力
下関市貴船町三 一 三三七
於保法律事務所
〇八三三 三四 一二二五 F兼

●治安維持法と現代について学ぶ定期誌



『治安維持法と現代』2005年秋季号
好評発売中
第16回 全国女性交流集会報告集

治安維持法廃止から60年、反動勢力は憲法改悪・教育基本法改悪をはじめ再び戦争と暗黒政治の復活に向けて動きを強めています。同盟の二大定期誌は過去に学び、同盟運動を発展させる必読文献です。
定価各1000円、送料240円、各都道府県本部でお求めください。
企画・編集 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟